さくら市男女共同参画情報紙

らいくゆう～ Like You

あなたらしく生きられる社会をめざして

第13号
2014.11.30

ハートの小さな穴をのぞく様子

家族で聴く誕生学 In 家族フェスタ

８月３(日)氏家公民館にて、家族フェスタが開催されました。

私たち男女共同参画委員会でもイベントブースを設けて参加させていただきました。

テーマは「家族で聴く誕生学」。

「誕生学」という言葉になじみのない方も多いと思いますが、「自分たちがどんな風にお母さんのおなかの中で成長してきたのか」や「自分自身の産まれてくる力」を知ることで自尊感情を育み、命の大切さを学ぶものです。

今回は、誕生学アドバイザーの細田恭子さんを講師にお迎えし、誕生学講座を開催しました。

当日は、事前予約の方も含め５０人ほどの方に参加していただくことができました。ありがとうございます。

講座スタート時に、細田さんから小さなハート型の折り紙が配られました。そのハートの真ん中をよく見ると、針で開けた小さな穴が開いていました。光にかざすとやっと見えるような小さな穴です。その穴のサイズが、私たちの命の原点である受精卵のサイズであるという説明から講座はスタートしました。

裏面に続く　⇒

ゆめ！さくら博参加

１０月２５・２６日に行われた「ゆめ！さくら博」に今年は２日間参加しました。

２５日は情報紙「らいく ゆう～」の展示と袋の中に水を入れたペットボトルを入れ抱っこする「生まれた時の体重を体験するコーナー」を設けました。

大人たちには「こんなに重かったんだっけ？」と出産時の子どもの重さを改めて感じていただき、子どもたちは「わたしってこんなに重かったの？」や「生んでくれてありがとう」とお母さんに感謝の気持ちを伝えていました。

２６日は 25 日の内容に加え、例年通りアンケートを行い、皆さんいろいろ考えながら答えて下さいました。結果は次号でお知らせいたします。

これからの活動予定

企業訪問

未来のあなたと大切なあなたへ！

頑張っているあなた
頑張ってきたあなた
新たな一歩を踏み出だすあなた
夢や希望を話しませんか
夢や希望を探しましょう

さくら市男女共同参画推進委員会では、市内の企業で働く女性の声を聴く１時間～２時間の懇談会を計画しています。皆さんの声を聴いて男女共同参画推進に役立てていきたいと思います。お楽しみに！

ペープサート

ペープサート（紙人形劇）の台本が、就学前の子供たち向けにシンプルに仕上がっています。

劇時間は１０分～２０分です。

私達が幼稚園や保育園などで、出前ペープサートをします。

手作りの紙人形たちが織りなす、ホノボノするライブ劇をお楽しみください。

ご希望の施設担当者のご連絡をお待ちしています。

新 委 員 募 集

ぜひあなたのおカを！

さくら市男女共同参画推進委員を随時募集しています。わたしたちと一緒に市の男女共同参画に向けた活動を行ってみませんか？イベントへの参加や情報紙の発行、また、あなたが考えた事業を行ったりと、より住みやすく明るいさくら市を目指して楽しみながら活動していきましょう！申し込み、問い合わせは下記企画政策課まで。

＊ ＊ ＊ 編 集 後 記 ＊ ＊ ＊

「輝く女性」の言葉を耳にする最近。女性の活躍を後押しする政府の施策は、女性の生き方にも影響する。女性はずっと昔も今も、それぞれの立場で頑張っている。＜輝く＆活躍＞と名前をつけた照明の灯りが、省エネで消えることのないようにエネルギー供給にも工夫が欲しい。エネルギーの源は家庭であり、地域であり、社会でもある。そして女性自身が内蔵する自家発電の照明も、高性能なタイプに変えて、パワーを効率よく持続させることもあれこれ考えたい。　M.K

●編集　さくら市男女共同参画推進委員会　●発行　さくら市総務部企画政策課〒329-1392 さくら市氏家 2771
ＴＥＬ　028-681-1113　ＦＡＸ　028-682-0360　Ｅ-mail　kikaku@city.tochigi-sakura.lg.jp

男女とも生きやすい環境づくりを　　Vol. 6

自然災害が続き、多くの尊い生命が奪われていることに、胸が詰まります。人間は、自然の猛威の前にあまりにも無力であることを思い知らされます。

ところで、２０１３年日本女性の平均寿命が８６．６１歳で世界一位、男性が８０．２１歳で世界四位になったことは、皆さんご存知のことと思います。

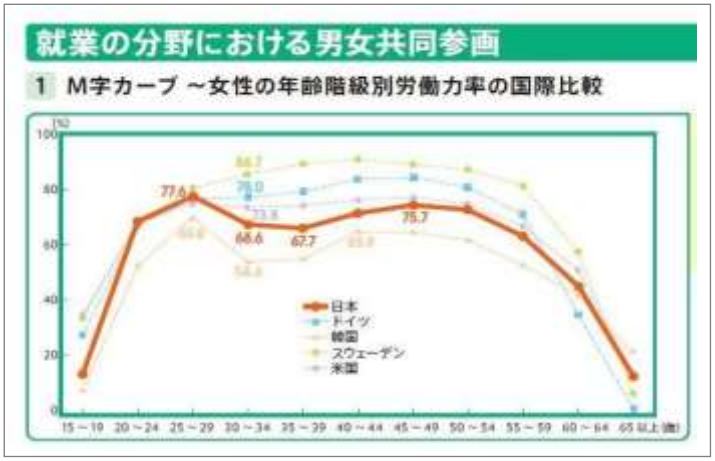
世界一の長寿国になったことは喜ばしいことですが、一方で少子化に歯止めがかかりません。このまま、少子高齢化が進むと、年金、医療、介護等の社会保障制度を維持することが難しくなるでしょうし、社会生活全体に影響が生じることが考えられます。

政府は、女性の活用を全面に打ち出し、すべての女性が輝く社会を目指しています。

女性が輝く社会とは、どんな社会でしょう。女性の労働力で経済成長する社会が本来の狙いではないはずです。

男性も女性も力を発揮して共に参画できる社会になることが本来目指すところです。

いまだに、結婚や出産で６割の女性が仕事をやめる選択をしていることは、育児と仕事の両立がいかに厳しく、「仕事か結婚か」「子育てか仕事か」という選択を女性だけが迫られているという現実があるということです。



内閣府「ひとりひとりが幸せな社会のために H25」より

女性が働きやすい社会は、等しく男性も働きやすい社会です。家族とのふれあいや家事の分担などを意識している男性は多いのに、現実はできない。

長時間労働や働き方の考え方を改善していくことは、女性のためだけではありません。

男女とも働きやすい環境を整えることが、今やらなければならない最優先のことです。

「男は外で猛烈社員、女は家庭を守る」という意識が根強いことも事実ですが、当たり前と思っている働き方、男女の役割分担意識を、今こそ見直したいものです。

女性が特別扱いされなければ輝けない社会ではなく、普通に働き、普通に安心して子供を産み育てられる社会をつくり、女性の就業率も出生率も向上させるために、より現実的な硬直的ではない対策が求められます。

役員や管理職への女性登用の数値目標を掲げ達成することは、ひとつの断面にすぎません。

非正規労働や格差、子供の貧困問題も忘れてはいけないことです。

世界に目を転ずれば、教育こそ唯一の答えだと、すべての子供達が教育を受けられることを、生命をかけて訴え続けている１７歳のマララ・ユスフザイさんが、ノーベル平和賞を受賞しました。マララさんやそれらの国の女性が置かれている状況の悲惨さ過酷さは想像をはるかに超えるものでしょう。

私は、微力です。どんなに微力でも、できることをできるところからやっていきたい。

「曲がり角の向こうはきっといいことがある」と、信じたいと思います。

さくら市上阿久津　　福　田　敦　子

家族で聴く誕生学

平成26年8月3日開催

針穴サイズだった受精卵が、お母さんのおなかの中でどのように成長してきたのか、どのように産まれてきたのか、骨盤模型と赤ちゃん人形を使いながら話してくれました。そして、赤ちゃんが産まれてくるには「命の道」を通る方法と、「命の窓」を開けて産まれてくる方法の２つがあるということを教えていただきました。ここはどう説明するのだろうとドキドキしながら聞いていたお母さんお父さんたちも、細田さんのロマンチックな表現に大きくうなずきながら、ほっとした様子でした。

子供を膝の上に乗せ、その子が生まれてきてくれた時の感動を思い出しながら聴いたお父さん、お母さん達と、自分がどうやって生まれてきたのかを真剣なまなざしで聴く子供達、それぞれの立場から命の大切さを再認識できたのではないでしょうか。私自身は細田さんの講座を聴くのは３回目でしたが、今回も子供達と出会えた奇跡を思い返し、目頭が熱くなりました。

講座の最後に、細田さんから受講された皆様に送られた言葉は、「うまれてきてくれて、ありがとう」でした。このような機会を通じて、命の大切さを再認識することによって、いじめや自殺、親子の愛着成形不全を少しでも防止できたら、と願います。

喜連川中学校「うまれる」上映会

好評だった昨年の氏家中学校に続いて、７月 11 日（金）に喜連川中学校で映画「うまれる」の上映会を開催しました。この日は保護者にも参加を呼びかけて、各教室のモニターで視聴しました。「うまれる」は 4 組の夫婦のそれぞれの妊娠、出産、育児を通じて、夫婦や親子の絆を描いたドキュメンタリー映画です。

生徒からは「自分が無事に生まれてきたことが、とても幸運なことだと思った。命や家族の大切さを改めて実感した」「赤ちゃんは空から両親を選んでくるんだということをすてきだなと思った」という感想が寄せられました。

保護者からは「いろいろな考え方、いろいろな人生がありとても共感できました」「出産時を思い出しました。今夜は子どもにやさしくなれそうです。」などの声が寄せられました。

アンケートに応えてくださったみなさま、ありがとうございました。今後の活動に生かしていきたいと思います。

各教室で視聴する生徒達

視聴する保護者の皆さん